

ことしは戦後70年

平和への願いをいつまでも

昭和20年8月15日の終戦から70年がたちます。戦争を体験していない人が大半を占めるようになった現在、平和の尊さを今一度考えることが必要ではないでしょうか。

長崎に投下された原爆により巨大なキノコ雲が発生(被爆写真展より)

戦争の悲惨さを忘れないために

成田市は 平和都市宣言のまち

日本は世界で唯一の核被爆国です。70年前に広島・長崎へ投下された原子爆弾は、一瞬にして数十万人もの人命を奪い去りました。今でもなお、放射能の後遺症に苦しんでいる人々がいまいます。しかし、世界各地では現在も核兵器の保有を続ける国があるだけ

でなく、新たに保有しようとする国が出現するなど、依然として核兵器の大きな脅威が存在します。

市では、非核三原則(日本は核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず)が完全実施されることを願ひ、核兵器の廃絶、恒久平和確立のため、太平洋戦争終結から50年目という節目の年に当たる平成7年2月21日に「非核平和都市」を宣言しました。

また、自ら永遠の平和都市となることを誓い、昭和33年10月31日に「世界連邦平和都市」の宣言もしています。

戦争体験伝える 活動を展開

小学生への平和啓発

市では、戦争を知らない子どもたちに平和の尊さを学んでもらうと、年3〜4回、市内の小中学校で平和啓発事業を行っています。ここでは、映画サークルつばさによる平和映画の上映や、戦争体験

者による講話を行っています。

戦後70年公開座談会

戦争体験者の話を通して、戦争の悲惨さなどを学ぶ公開座談会を開催します。事前申し込みは不要で、どなたでも参加できます。

日時 8月12日(水) 午後2時〜4時
会場 赤坂ふれあいセンター
内容 3人の戦争体験者による体験談、平和映画の上映

広報なりたで新連載

広報なりたでは、8月15日号から新連載を開始します。

この連載では、子ども時代を戦時下で送った人たちが語った、戦時中の成田での生活について掲載する予定です。

被爆写真展

市では毎年8月に「広島・長崎被爆写真展」を開催しています。

この展示会では、平和の尊さと核兵器の廃絶をテーマに、原子爆弾投下直後の惨状を記録した写真パネルが展示されます。

会場と日時

○市役所1階ロビー…8月6日(木)

まで 午前8時30分〜午後5時15分

○ボンベルタ成田店4階レストラン街周辺：8月10日(月)〜16日(日) 午前10時〜午後9時(10日は午後1時から)

戦争体験記・DVDの貸し出し

市では、戦時中の成田での生活や、実際に戦地に行った人の体験などをまとめた戦争体験記「今だからこそ」を市立図書館で貸し出しています。

また、4人の市民による戦争体験談を収めたDVDを生涯学習課(市役所5階)と視聴覚サービスタワーで貸し出しています。

世界連邦平和都市宣言

(昭和33年10月31日宣言)

成田市は、宗教観光都市として、世界連邦建設の趣旨に賛同し、自ら永遠の平和都市となることを決意し、全世界の恒久平和確立と人類の福祉増進に努力せんとするものである。

右宣言する。

非核平和都市宣言

(平成7年2月21日宣言)

世界の恒久平和は、全世界の人々の共通の願いである。

我が国は世界で唯一の核被爆国として、広島・長崎に原爆が投下されて本年で50年目を迎える。

我々は、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再びこの地球上にあの惨禍を繰り返すことのないよう強く望むものである。

このため、平和を希求する我々成田市民は、我が国の国是である非核三原則が完全実施されることを願ひ、全世界の人々と共に、核兵器の廃絶、恒久平和確立のためここに「非核平和都市」を宣言する。



惨状を訴える写真パネルの数々



千羽鶴を託される折り鶴平和使節団員(平成26年度)



ボランティアによって束ねられた千羽鶴

広島・長崎への思いを形に 折り鶴平和プロジェクト

市では、市民が手作りした折り鶴を広島・長崎に届ける「折り鶴平和プロジェクト」を平成21年度から実施しています。

核兵器の廃絶を掲げる地方自治体で構成される「平和首長会議」に、平成21年3月に加盟したことをきっかけに、平和啓発活動として取り組んでいるものです。

ことしまでに 約100万羽を被爆地へ

これまでの6年間で、市に寄せられた折り鶴は、約89万1,000羽。ことしも市内11中学校の全校生徒の手で折られた鶴をはじめ、市民の皆さんから約10万羽も

の折り鶴が寄せられました。

ボランティアの手で 千羽鶴に

折り鶴は、高齢者クラブなどのボランティアによって千羽鶴に束ねられます。ボランティアの中には、戦争を体験した人も。

ことしは7月9日〜24日に、延べ162人のボランティアが参加平和への祈り、被爆地への思いが込められた折り鶴に糸を通し、一羽ずつ丁寧につなぎました。

こうして、大勢の人の協力で作られた千羽鶴は、広島と長崎でそれぞれ行われる式典に供えられます。

長崎で学び成果を伝える 折り鶴平和使節団

市では、「折り鶴平和プロジェクト」の一環として、市内11中学校のそれぞれの代表生徒で構成される「折り鶴平和使節団」を長崎へ派遣しています。

この使節団は平成25年度から毎年派遣されており、被爆地を訪れ

て、戦争の悲惨さや平和の尊さを学びます。

実際に訪れたからこそ 分かること

団員は、6・7月に合計3回実施される研修で使節団としての心

折り鶴平和使節団団員紹介



今年度の団員の皆さん

○鈴木彩希さん(成田中学校)：長崎に行つて学び、戦争の恐ろしさや二度と繰り返してはいけないということ、多くの人たちに伝えていきたいです

○芹川中枝奈さん(遠山中学校)：長崎で何があったのか、平和とは何かを知り、二度と戦争が起らない世界になるよう、貢献したいと思います

○長谷川祥大さん(久住中学校)：長崎を訪れ、感じたことをしっかりと、みんなに伝えたいと思います

○越川優里佳さん(西中学校)：このような貴重な経験ができてうれしいです。わたしが学んだこ



平成26年度
折り鶴平和使節団 団長

小保方 翔大さん

**使節団は貴重な経験
代表の自覚を持って**

長崎訪問の前に市役所で行われた「折り鶴平和使節団・千羽鶴出発式」で千羽鶴を手渡されたとき、鶴を折った人や千羽鶴に収束した人など、多くの人たちの思いを背負った気がして、身の引き締まる思いでした。

長崎を訪れて、学校の授業でしか学んだことがなかった戦争や原爆の恐ろしさが、より強く感じられました。折り鶴平和使節団としての活動は、とても貴重です。長崎訪問は観光旅行ではありません。「学ぼう」という意欲や、各中学校・成田市の代表としての自覚を持って長崎を訪れてほしいと思います。そして、学んだことを学校や家庭、報告会を通して多くの人に伝えてください。



千羽鶴収束作業
ボランティア

三橋 照子さん

**鶴を折った人たちの
思いを感じながら**

折り鶴平和プロジェクトが始まった平成21年度から毎年参加しています。指先を使う細かい作業が多くて大変ですが、それ以上にやりがいを感じます。市民の皆さんが一生懸命折った鶴だからこそ、一羽一羽を大切に束ねています。この作業は、ただ早く仕上げればよいわけではありません。色合いを考え、数を間違えないように気を付けて作業しています。完成した千羽鶴を並べて眺めたときの達成感は格別です。

わたしは小さいころに戦争を体験しています。時折昔を思い出しながら、今の平和がいつまでも続くようにと願いを込めて活動しています。

〇被爆者の高齢化が進んでいる現在、わたしたち若い世代がその経験を未

〇被爆者の話や被爆した建物に原爆の恐ろしさを思い知らされ、胸が苦しくなった。この経験を一人でも多くの人に伝えていきたい

〇被爆者の話や被爆した建物に原爆の恐ろしさを思い知らされ、胸が苦しくなった。この経験を一人でも多くの人に伝えていきたい



原爆の傷跡が残る浦上天主堂の遺壁を見学

来へ引き継ぐことが必要だと感じた

〇長崎にある平和祈念像の足は、苦難から立ち上がろうとしている人々を表現しているということを知った。つらい経験をしながらも必死に前を向いて生きている人々の姿を見て、心を打たれた

学んだこと・感じたことを報告会で発表

団員が活動の成果を発表する「折り鶴平和使節団長崎訪問報告会」が11月1日(日)、もりんぴあうづで開催されます。

報告会では団員一人一人から、写真や映像と共に、折り鶴平和使節団の活動内容や、長崎訪問についての報告が行われます。

※くわしくは広報課国際交流室(☎20・1503)へ。

とを多くの方に伝えられるように、頑張ります

〇柳澤みつ樹さん(中台中学校)：戦争についてはほとんど何も知らない状況なので、長崎に行つてたくさん戦争について学び、考え、未来に生かしていきたいです

〇揚原聖智さん(吾妻中学校)：戦争と真正面に、逃げずに、向き合いたいと思います

〇小倉明日香さん(玉造中学校)：実際に被爆地へ行き、思ったこと、感じたことを伝えるためにしっかりと学習していきたいと思えます

〇勝山朋美さん(下総みどり学園)：戦争の恐ろしさ、平和の大切をしっかりと理解した上で長崎へ行きたいです

〇米山佳穂さん(大栄中学校)：戦争の恐ろしさ、平和の尊さをしっかりと学び、たくさんの方々に伝えていきたいと思えます

〇田邊華さん(六津の杜中学校)：被爆した方々や戦争で亡くなった方々に掛ける「言葉」を長崎で探したいと思えます

〇池田直之さん(成田高校付属中学校)：この長崎派遣を通して少しでも長崎のことを学びたいと思えます